

## 第7期武蔵野市情報公開委員会（第2回）会議要録

- 日 時 平成22年4月9日（金）午後6時00分～午後8時40分
- 場 所 武蔵野市立かたらいの道 市民スペース
- 出席者 委 員 7名、広報課長、広報課主任、事務局 2名

### 1. 会議内容

#### （1）報告事項

- ・ 委員会事務局職員の人事異動について
- ・ 平成21年度の開示等状況について

#### （2）審議事項

- ・ 市報及び市ホームページの見直しについて
- ・ 市報特集号（情報公開制度）について
- ・ 平成22年度6月以降のCIMコラムのテーマについて

#### （3）前回会議要録（案）について

### 2. 討議内容の要点（要点筆記とし、敬語等は省略します。）

#### （1）報告事項

（委員長） 事務局から報告事項についてお願いします。

[事務局職員の人事異動について報告]

[平成21年度の開示等状況について報告]

（委 員） 開示の決定は早期に行えていますか。

（事務局） 定められた期間である2週間以内に行っています。その期間内においては部署によって多少の差はあります。

（委 員） 住民票等の請求件数が多いのはなぜですか。

（事務局） 住基カードを紛失した方が、第三者に不正に請求されていないかどうかを確認するケースと親族間の訴訟の関係で請求されるケースがあります。

#### （2）審議事項

##### ①市報及び市ホームページの見直しについて

（委員長） では、審議事項に入ります。「市報及び市ホームページの見直しについて」

を議題とします。よろしくお願いいたします。

(広報課) 市報及び市ホームページにつきましては現在見直しをしているところですが、それにつきまして情報公開の立場あるいは一利用者の立場からご意見なりご感想をいただければと存じます。よろしくお願いいたします。

(広報課) 説明

(委員) トップページの第一印象ですが、武蔵野市のホームページという印象が薄く、伝わってくるものがありませんでした。また、他市を例にとりますと、例えば逗子市の場合は、「暮らし・届出」、「市の仕事・市政」、「市の観光・紹介」という3つの見出しと新着情報等の構成になっています。この「暮らし・届出」をクリックすると、ライフシーンと対象者からそれぞれ探せるようになっていて、とてもわかりやすく感じました。

(広報課) 逗子市の場合はさっぱりしているようですが、この方が障害者の方にとっては使いやすいですね。同じように札幌市のものも見ていただきますと、下の方はずいぶんさっぱりした感じになっています。ユニバーサルデザインに配慮するとこういった箇条書きになります。画像やアイコンをできるだけ使わない、その代わり見出しがしっかり入っていないと情報が見つげにくくなります。

(委員) 恥ずかしながら今回はじめて市のホームページを見ました。そこで、コミセンのサイトを見ましたが、各コミセンの情報はありましたが、コミュニティ条例や原点になっているものが見つけられませんでした。検索していきますと、研連というところにはいかないとできませんでした。わかっている方にはいいですが、一般的には検索しづらく感じました。それから、以前亜細亜大学で行われた講演会で、講師の方が武蔵野市のホームページは見にくいというお話をされ、あまりいい評価ではありませんでした。また、コミセンの評価委員会の報告も載っていましたが、報告書の原文だけが載っており、委員会での指摘事項やそれを受けてのコミセンや市の対策等の掲載がなく、見る方はよくわからないだろうなと思いました。

(広報課) その点についてですが、ホームページは必要な情報だけダウンロードして自分のパソコンに保存する方が多くいます。いわば見つけるツールになっています。そういった形で使われている方が多いので、そういう方に配慮してできるだけ見やすいように、あまり多くを書かずに掲載しているところが多いのかも知れません。そういった方を含めたいろいろな要望がありますので、それを踏まえながらどうしていくかは市のほうで考えなければならぬと思います。

(委員) 研連の会長などにも聞きましたが、市のホームページは、自分たちはよくわかっているからほとんど見ないとのことでした。日常の行事などは市報で

見ているとのことでした。

(広報課) そうですね。ただ市報は時間が経てば捨てられてしまいますので、市報で情報を知っていただいて、時間が経ったらホームページで検索していただくといった使い分けをしていただくといいのかなと思います。

(委員長) コミセンのホームページは全てのコミセンが持っていて、頻繁に更新もされているのですか。

(委員) そうですが、特定の人でないと更新できないといった意見があります。

(広報課) 市でも担当者によるところが大きいです。担当がさっぱりなタイプだとホームページの方もさっぱりな感じです。一方、関心のある方だと画像にさえ加工してしまう方もいます。その辺をどう統一していくかが、市でも課題になっています。正直なところ人事異動があるたびに変わってしまう状況です。

(委員長) 先ほど先進的だと説明のありました浦安市や相模原市でも結構ですが、ホームページを作り変えるときはどういう体制で行っているのか、市役所が主体なのか、あるいは優れた業者が主体なのか、それに加えてその後どうしていくのかといったマネジメントの問題もありますね。そういう体制も勉強しなければだめかも知れませんね。

(広報課) 他市の状況ですが、精通した職員が異動してきて 1 年間ですべて作ってしまうといった職員主導のところもあります。また、十分なお金と時間をかけ、ホームページをつくる業者を決める前に仕様を作るための業者を決めるといった 2 段型で行っているところもあります。その仕様を決めるにあたっては、専門のコンサルが入って市民にヒアリングをしたり、職員にヒアリングをしたりしながら設計書・仕様書を作成しますが、費用は 1 千万円を超えます。本市の場合、そこまでお金はかけられないと思います。いまは職員で何をやりたいのか考えなさいということで、プロジェクトチームを設置して、どの市のものか情報収集をしているところです。最終的にはプロポーザルをして、こちらがやりたいことを業者にやらせ、逆に業者からはこんな技術でこういったことができるという説明を受けて、最終的に一番良い業者を決めていきたいという考えです。

(委員長) 先ほどのお話で、技術のある職員の方が 1 年間来てつくったとしても、その後の管理運営やメンテナンスがされないことがないように工夫はなされているのですかね。

(広報課) どの自治体もその辺は苦労しています。本市の場合は、市報に載せた記事は必ずホームページに載せることで漏れがないようにはしています。ただ、それ以上の情報をどこまで載せるかということは、担当者や管理する課長の視点になります。

(委員) 先ほど「こどもむさしの」をインターネットでというお話がありましたが、「こどもむさしの」は意外と低学年の生徒に読まれています。低学年のうちから総合学習の時間をとってインターネットを利用するのは、ぎりぎりの授業時間の関係もあり現実的に無理だと思います。また、子どもの国語力が不足している現状もありますので、そこをどう考えるかということがあると思います。「季刊むさしの」は歴史の情報も入っていて市民に伝わりやすい良い季刊紙だと思いますが、毎月のことではないので、こちらを1ページ割いても紙面をもって子どもに伝えることを私は強く要望します。

(広報課) 「こどもむさしの」のターゲットは小学校高学年と中学生ですが、実際に配布しているのは市内の全小中学生に配布しています。お子さんかいる400世帯にアンケートを行ったところ、学力差がある小学校1年生から中学校3年生では対象範囲が広すぎるし、これを1枚のペーパーにするのは無理があるのではないかという意見があり、今年度から「季刊むさしの」を中学生も対象にし、内容も中学生向けにしていく予定です。今後これについてはいろいろなアイデアをいただく予定です。また、「こどもむさしの」については小学生からアンケートをとっていて、その中ではクイズ欄を一番よく見ているという回答でした。他はイラストや、自分の友達がでていのかどうかなどですが、果たしてそれについてお金をかけてペーパーにして配ることに意味があるのだろうか、それよりは地域のことをできるだけ知ってもらって、大人がアシストして教えてあげるようなシステムが必要ではないかということです。そして、ホームページ内でキッズページをつくるにあたっては、教育の部署にも入っていただいて、どんな情報を市が提供したいのか、どんな形にしたら子どもに見てもらえるのか、1回限りの紙ではなくいつでも使えるようなホームページにしたいと考えています。

(委員) 「こどもむさしの」については、もう少し市のやっていることが伝わるものが欲しいとかねがね言っていましたが、変わらなかった経緯がありました。そのことについては、すみませんが少し努力が足りなかったと感じます。紙面を通しての努力が子どもの読む力を育てるという観点からは、ネットだとスッと通り過ぎてしまい、データとして残るから良いのかもしれませんが、物としても欲しいというのが私の意見です。

(広報課) 市には学校があり、図書館がありますので、それぞれの業務の立場から考えるものだと思います。

(委員) 先ほども申しましたが、学校に頼るのは無理だと思います。

(広報課) 学校だけでなく児童青少年やそういったところからも情報をいただきながら、広報課として子どもに伝えていくにはどうしたらいいのかを考えていきたいと思っています。

- (委員) 確かに「こどもむさしの」はいいですね。私も委員の意見に賛成で残してほしいと思います。私の孫も一生懸命読んでいます。
- (委員) 中学生にも配布しているということで、子どもが私立中学生の場合は、別に個人宛で郵送されるのですね。1枚あれば家でも読めると思うのですが。
- (広報課) 要望として、例えば弟が公立の小学校に通っているので要りませんという要望があれば、その宛名についてはリストから削除いたします。
- (委員長) ホームページの見直しについては、おそらく全体の改革の方向はこちらでよろしいのだと思います。市民の視点に立って変えていきたいということ、市報は入口のメディアとして、そしてそこから先の受け皿メディアとしてホームページを活用してもらうという大きな方向性については大きな異論はありませんが、先ほどから出していただいた意見でいうと、紙媒体の良さ、これは市民一般というよりもむしろ子どもに対してある種の教育的観点から考える必要もあろうかと思います。情報公開の観点からだけではなくて総合的にということです。
- (委員) 質問させていただきますが、更新の度合いは随時できるということですが、その管理はどうしているのですか。
- (広報課) 所管の課長決裁が必要になり、なおかつその全体のバランスを見るために広報課で決裁をしています。更新の回数は1日に6回と限定しております。
- (委員) 先ほど報告書の掲載がバラバラであるという話もありましたが、形式・内容についての統一的な基準がないと当然バラバラになってしまうと思いますので、一定の基準が必要だと思います。
- (広報課) 何らかのガイドラインを作る必要があると考えています。市政資料コーナーともすりあわせをしながら、現物でもインターネットでも見れるようにしていきたいと考えます。
- (委員) それから、例えば転入してきたときに市役所で行う複数の手続きが一目でわかるようなページレイアウトをつくるべきだと思います。部署ごとに縦割りのものでなくということです。
- (広報課) そうですね。現状でもそうなっていることはなっているのですが、見やすさという面では先ほどの逗子市の方が見やすいですね。
- (委員) それからコミセン側の意見として、武蔵野市には町内会や自治会がないわけですが、転入してきたときに、地域にはコミセンというものがあり、こういうことをやっていますといった情報を入れていただけたらと思います。
- (委員) 私は、子ども手当の施策について検索しましたが載っていませんでした。すでに申請を受け付けている自治体もあると思いますが、今どの程度進んでいるのか、随時更新できるのであればそういう情報を出してもいいのかなと思います。施策の経過ですね。今どこの段階にあるということについても出

していくようなしくみづくりも必要ではないかと考えます。

(広報課) 定額給付金のときは出していました、コールセンターも設けてやっておりました。

(委員) それから、今度子ども協会ができて業務が移管される部分もでてくるわけですね。ホームページには施設関係の運営団体の情報も出ていましたが、市民の方は全部役所でやっているという認識がものすごく強いので、そこをうまくつなげていかないといけないと思います。うまく誘導していくようなづくりが必要だと思います。すぐにこれは別団体ですよという持って行き方ではなくてということです。

(広報課) おっしゃることはわかります。例えば会議室を借りたいときに、会議室は複数の施設内にあるわけですが、今はそれぞれの申込みシステムに行き空き情報を確認しなければなりません。そういった情報も会議室の施設申込みとして一つの欄を設ければ、全てが一覧で見られるようになります。ただ現実的にはいろいろな縛りがあってできるかどうかわかりませんが、いずれにしても委員のおっしゃるような利用者の視点に立ったリニューアルをしていきたいと考えています。そのためには、トップページに来た方をどうやって捌くか、コンテンツの配置やどんなコンテンツを持ってくるのか等がこれから重要だと考えています。これからもいろいろな方の意見を聴いて取り組みたいと考えています。

(委員) どこかの市のホームページでは、市民の方、市外の方、事業者の方と3つの入口がありましたが、この方法についてはいかがですか。

(広報課) 実は三鷹市がそうなのですが、情報が交錯しうまくいかなかったようで、最近変わっております。

(委員) リニューアルのスケジュールについてはどうなっていますか。

(広報課) 希望を申しますと、9月議会で補正予算を通して業者選定に入り、その上で秋口から、半年から8ヶ月くらいかけて開発をし、来年の7月にリニューアルできればと考えています。

(委員長) わかりました。だいたい基本的な方向はよろしいかと思いますが、その他もろもろご意見がありましたら、今後の会議等を出していただければと思います。

では、次に市報についてはいかがですか。

(広報課) こちらで考えておりますのは、将来的には特にお知らせしたい情報や、お年寄りが読まれる情報については、できるだけ見出しやポイントを大きくして見やすいものにしていきたい。また、そうではなく例年行われているようなものについては活字を小さくしながらも見出しはしっかり付けて、情報量を増やしていかないといけないと考えています。それから、今はほとんど写

真の掲載がありません。他市の例では、一面に写真が大きく入っていて何を一番お知らせしたいのかがよくわかります。

また、例えば子どもに関する情報については、今は分散されているものを子ども関連で一つのページにまとめるべきだと考えています。

(その他課題等についての説明)

- (委員) カラーにはできないのですか。
- (広報課) 最近他自治体ではカラーが多くなりましたね。
- (委員) コスト的にはどのくらい違うのですか。
- (広報課) 見積もりをとっていないので正確にはわかりませんが、一昔前よりは差がなくなってきたと思います。ただ写真が入っていないとカラーにする意味がないと思われそうですし、写真のスペースを大きくすると、他のスペースを削らなければなりません。情報量を減らすことは難しいです。
- (委員) 写真も確かに少ないですが、もう少しアクセントを付けた方がいいと思います。
- (広報課) 市民の方からも何を伝えたいのかメリハリをつけたほうが良いとの声がありますので、見出しやポイントを大きくする等の方法を考えています。ただデザイン的なものについては専門家をお願いすることになります。
- (委員) コミュニティについては、最後のページによくまとまっていると感心します。
- (広報課) できるだけ場所は変えないようにしています。
- (委員長) 各ページの左上の市政ニュースやコミュニティという見出しがありますが、これがあることによって一面にわざわざインデックスを作らなくても、見たい情報はこれを手がかりにしていけるということですか。
- (広報課) そうですね。お年寄りの方を中心に今の形を変えないでほしいという声もあります。
- (委員) 確かにそのとおりだと思います。お年寄りの方々はよく見ていて、この形はこの形で役割を果たしていると思います。それから、シルバー人材センターの配達になってから、三鷹市や小金井市の方が自宅に入らなくなったということで、コミュニティセンターにもらいに来る方がいます。それだけ皆さんよく読んでいるのだと思います。
- (広報課) ありがたいことです。
- (委員) 見出しについてですが、中抜きで目立たせているものとそうでないものがありますが、統一的ではないのですね。
- (広報課) そうですね。例えば、「ごみとリサイクル」などは特定の強調する見出しになっています。
- (委員長) 全体的にこれだけの情報があると、見やすくするという事はなかなか難

しいですね。また、記事の軽重を付けるのも、広報課で権限を持っていないと、それぞれの主管課でうちの記事が一番大事だからということで、これもなかなか難しいかもしれませんね。そういった体制も含めて考えたほうがいいと思います。

(委員) 私は比較的見慣れていますので、今のものでも探しやすいです。今からあまりいろんな形に変えなくてもいいのかなと思います。これだけの情報量をこの紙面の中に入れるのは大変なことだと思いますし、また、これがもう1ページ増えればいいのかというと、そういう問題ではないと思います。配られたものを読む限度はだいたいこのぐらいの分量だと思います。少しここを直したほうがいいという点は個人的には見当たりませんでした。

(委員長) 先ほども申しましたように、市報が入口媒体でホームページが受け皿媒体という方向性は正しいのだと思いますが、市報を利用されている方が非常に多いということ、あるいはメディアリテラシーという問題もありますので、移行期の難しさも考えながら、抜本的にはなくうまく移っていきえるように考えてくださいということでしょうか。また個別に意見がございましたらお伝えいただくということで、この議題はここまでとさせていただきます。

## ②市報特集号（情報公開制度：5/15号）の紙面について

### 意見として出された改正点等

- ・ 情報公開利用状況の表中に前年度の件数も入れる。その際に、件数が前年度より減少したことについて、その理由がわかるよう説明書きを入れる。
- ・ 情報公開利用状況の記事を紙面右上に移動し、左上の情報公開制度についての説明部分と一体化させる。市政資料コーナーの記事は紙面下部に持ってくる。
- ・ 実施機関の件数は市長部局の内訳のみとし、他の実施機関の件数は省略する。
- ・ 一部開示および非開示の理由の表中に合計件数を入れる。
- ・ 見出しの「情報公開制度をご存知ですか」は前年度に使用しているため、今年度は一歩進んだ表現になるよう検討する。
- ・ 情報公開率・公開度については、一元的に数値が高ければよいというものではなく、請求内容によっては守るべき情報があること、また開示請求によらずとも、すでに情報提供という形で公開されている場合にはおのずと数値は低くなることからここでは採用しないこととする。

## ③平成22年6月以降のCIMコラムのテーマについて

### 採用されたテーマは下記のとおり

<前回からのテーマ>

- ・ 中央線高架化で生まれるスペースの利用（公表が6月ごろ予定）



- ・ 武蔵野市立かたらいの道 市民スペース（4月1日号市報メイン記事掲載）

<新規テーマ>

- ・ 武蔵野プレイス
- ・ みどりのこども館
- ・ 障害者就労支援事業
- ・ 非核都市宣言平和事業（時期を合わせること）

(3) 前回会議要録（案）について

前回会議要録（案）については承認された。

(4) 次回会議の日程について・・・平成22年9月27日（月）18時～

以上